



安佐町

飯室 いむろ

地名は氷室に由来とも 陸路と舟運で栄えた町



飯室地区全景。中央に複合ショッピングセンターCOMS安佐パーク。
右奥に清和中学校が見える

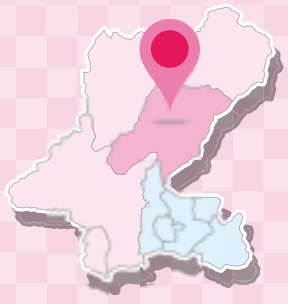
飯室の地は太田川とその支流、鈴張川流域の山間部に位置します。地名の由来は文政2(1819)年の「国郡志御用につき下調べ書出帳」によると、『往古諸国に設置された氷室にちなむ』とありますが、定かではありません。また、この地を同書に見ると、古市地区と宇津地区が本郷(古くから開けた村の中、心地と記されています。一つの村に二つの本郷が在るのは珍しく、往古から陸路と舟運で栄えた証しとも言えます。

山陰を結ぶ強力な役割を果たすようになりました。

一方、舟運の起源は中世(1300~1500年)頃とされています。鎌倉~戦国時代までは莊園領主や武将の経営が優先して行われていました。江戸時代になると、この舟運で村では可部を経由し諸物資の供給が行われ、宇津地区は近世から近代にかけて、旧安佐郡北部、山県東部の米・麦・薪・炭等の積み出し港として栄えました。

鉄路の開通と廃止

また、太田川に沿って旧国鉄可部線の可部~飯室間が昭和11(1936)年に開通し、同21(1946)年には布地区まで延伸しました。山陽と山陰を結ぶ鉄道として明治時代から計画があり、さらに延伸工事は進められ同29(1954)年には加計、同44(1969)年には三段峡まで開通。しかし、自家用車が普及し赤字を理由に平成15(2003)年に可部~三段峡間は廃止されました。





鈴張川河口の宇津地区から太田川を臨む。奥に広島自動車道が見える

いむろ 飯室

飯室を鎮守する高位の社
土居城主三須氏の居城跡

① どいずみじんじや 土井泉神社

この境内は1300年代後半頃から、三須氏の居城であった。時は不詳、三須氏は帰農し、この地はしばらく空地となったはず。天承元（1131）年、甲斐国より宇津に勧請され、宇津八幡として建立された。時不詳、宇津の地より、この泉山に遷宮された。



当地最古の浄土真宗寺院
木造如来坐像は市の重要文化財

② ようせんじ 養専寺

古くは真言宗で、明応8（1499）年に順知が水主町へ開基する。のち、浄土真宗に転じ飯室上手の寺山に本堂を建立。文政11（1828）年、二層の山門を建て現在地に移る。



もくぞうによらいざぞう 木造如来坐像

本堂にどっしりとした重量感のある木造如来座像が安置されている。作りは、一木造（頭部と体部が一本の木から彫り出す技法）の像で、彫法や衣文の刀法から平安時代のものでしょうか。市指定重要有形文化財（平成5年）



古くからの産宮、産砂社
神社形態の初期のものか

⑤ うくすなじんじや 生砂神社

天正17（1589）年、毛利輝元が広島城を建築する年から遡ること数百年以前に勧請したものらしいとの言い伝えがある。



鎌倉幕府成立時期に祭神来る
往古から改称を繰り返す

④ りゅうおうじんじや (すいじんじや) 龍王神社(水神社)

建久3（1192）年、飯室の笹ヶ丸地区（不明）に奉斎。後、現在の地に遷宮。往古は社号を亀甲山と称えその後龍王山と改称、更に明治4（1872）年、水神社と改称したものである。



古寺を凌いで建てられた
可部の綾ヶ谷から移築

③ しょうねんじ 正念寺

江戸の初期、僧浄照が真言宗正念院として綾ヶ谷に建立。享保15（1730）年、正山が浄土真宗に改宗し正念寺と改め猪の子地区に移築。時は不明「狭い地域に二ヶ寺はいらぬ」ということで、正念寺が残った。

飯室 いむろ



かつては森山の山頂に在った
境内の石垣は築城様式

8 浄国寺

もとは真言宗で永正9(1512)年、正学により開基。天文2(1533)年、釈得了により浄土真宗に改宗。享保5(1720)年、に草葺きで現在と同等の物が再建。大正14(1925)年、現在の伽藍を再建。



災害で被災した人を祀る
近くには戦死者供養の塚も

7 薬師堂

1751~1790年(宝暦~天明)の頃、上島に山津波がおり、浄巖寺や多数の民家が流されてしまった。後に浄巖寺付近から薬師如来像が出土。現在地にお堂を建て祀ったのがはじまり。



神主河野家が勧請か
いつ当地に祀られたか不明

6 大歳神社

神主河野家先祖が上島地区へ住居を定めるとき、天保10(1839)年か天保11(1840)年ころ勧請したものか、もともと上島地区に祀られていたものなのか定かでない。



旧JR安芸飯室駅ホーム跡に咲く桜



国鉄可部線は昭和11年開通
惜しまれつつ平成15年廃線

9 旧 JR 安芸飯室駅

旧国鉄可部線は昭和11(1936)年10月に開通。昭和20年代は木材を運んだ貨物列車が中継駅としてこの駅も利用された。昭和46(1971)年3月まで蒸気機関車が運行されていた。平成15(2003)年に廃線。



舟運の安全を祈願
地元では「観音さん」

11 観音堂

この地太田川の船頭泣かせの難所「獅子走り」の川中から引き揚げられた石が御神体。言い伝えでは、庄屋さんの夢枕に立ったとのこと。この宇津地区は昔から水害が多くあり、春祭りでは水難祈願も行っている。



豪族なのか領主なのか?
地名の由来となった

10 宇津孫右衛門の墓

この墓は戦国末期から安土桃山時代の物だと鑑定された。伝えによれば、宇津氏は数百年宇津地区に住んで相当羽振りをかかしていたらしい。「郡中国郡志」によると、宇津氏にちなみ地名を「宇津」とした。

宇津孫右衛門屋敷跡→

